

2012 年度

# 事業報告

公益財団法人宇宙科学振興会

# 2012 年度(平成 24 年度)事業報告

2012 年度は当財団、宇宙科学振興会が 4 月 1 日付で公益財団法人に移行して最初の事業年度であった。新財団の目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の進展に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、① 宇宙科学奨励賞顕彰事業、② 国際学会出席旅費支援事業、③ 国際学会開催支援事業の 3 事業である。2012 年度においてはこれらの 3 事業を推進した。旧財団において実施してきた宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙活動に関する他団体が中心の事業への支援・協賛事業は、移行後は規模を縮小して法人会計の管理費で継続した。

2008 年度に創設した若手研究者対象の宇宙科学奨励賞は 2012 度が第 5 回となり、奨励賞選考委員会の選考結果の報告を受け、理学系の若手研究者 1 名、工学系の若手研究者 1 名の合計 2 名に宇宙科学奨励賞を授与した。若手およびシニア研究者の海外渡航への支援については当財団の主要活動として関係者に周知され、最近では毎年多くの研究者が応募するようになった。日本国内での国際会議主催の支援も近年は上半期開催分と下半期開催分の 2 回に分けて応募締め切りと審査をおこなっているが、近年は応募件数の増加傾向が見られる。

移行後の新体制に適応するため、前年度(2011 年度)より財団の運営、事業形態、会計処理法等の整理を進めてきた。会計処理については 2011 年度よりは「公益法人会計基準(平成 20 年 4 月(平成 21 年 10 月改正)内閣府公益認定等委員会)」を適用している。

## I. 公益目的事業

### (1) 宇宙科学奨励賞

公益財団法人宇宙科学振興会では宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学を推進する中心となるものと期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的とした宇宙科学奨励賞をその前身の財団法人において 2008 年度に創設した。この事業ではまず関係学会(2012 年度現在は 15 学会)に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の研究者のうち、37 歳以下(これは大学院卒業後約 10 年間を目途とするとの趣旨)で最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。そして寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から 1 名、宇宙理学関係から 1 名、合計 2 名の候補者を選出する。理事長は理事会の委任によりその選考委員会の推薦に基づいて該当年度の授賞者を決裁する。

2012 年度は第 5 回目となるが、理学系 6 名、工学系 4 名、合わせて 10 名の授賞候補者の推薦を関係学会等各分野から受けた。2012 年 12 月 11 日(火)に第 1 回、2012 年 12 月 21 日(金)に

第2回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。選考委員会において審査の結果、理学関係では米国SLAC国立加速器研究所 スタンフォード大学パノフスキーフェローの内山泰伸(うちやまやすのぶ)氏、研究題目「科学衛星を用いたX線、ガンマ線観測による宇宙線加速の研究」に、また、工学関係は独立法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所助教の津田雄一(つだゆういち)氏、研究題目「ソーラーセイルによる深宇宙探査・航行技術の実証的研究」に、それぞれ第5回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。

表彰式は2013年3月12日に霞が関ビル東海大学校友会館で開催され、内山泰伸氏、津田雄一氏には松尾理事長より本賞(賞状と表彰楯)と共に副賞(賞金20万円)が贈呈された。当日は引き続き内山泰伸氏、津田雄一氏による受賞記念講演が行われ、その後財団主催の祝賀会が開かれた。

## (2) 若手及びシニア国際学会出席旅費支援事業

この事業は前身の財団法人により 1997 年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006 年度からは、大学及び研究機関などを退職後も、活発な研究を行っているシニア研究者に対しても、支援を行っている。

この事業は年 3 回応募締め切りを設定する公募型の事業である。応募の締め切りは 5 月 15 日、9 月 15 日、1 月 15 日の 3 回とし、それぞれ 7 月～10 月、11 月～2 月、3 月～翌年度 6 月の渡航を対象とする。これに応募し、旅費支援を申請した書類は当財団の助成審査会において採否が審査される。従来応募総数に対する採択率は平均して 3 分の 1 程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表される。そして渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を提出願い、それをホームページに掲載している。

2012 年度も例年通り 3 期に分けた公募を行なった。この公募は、財団の公式ホームページの他に関係 15 学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には 1 件当たり 10～25 万円の範囲で助成を行うこととしており、2012 年度の予算では期間中に 10～15 件程度の国際会議出席旅費支援を予定した。2012 年度は審査の結果、6 月に 10 件、10 月に 1 件、2 月に 0 件 合計 11 件(応募者総数 50 件、採択率約 22%)に対して助成採択決定をした。また、採択者には公示の枠内(1 件当たり 10～25 万円)で渡航先、渡航期間・時期に従って算定した助成金が支給された。2012 年度は本事業の予算額 2000 千円に対して実施助成金額合計は 2,120 千円であった。表 1 に 2012 年度の助成支援者 13 件(内 2 件; 表 1 中 No. 1 及び No. 2 は 2011 年度採択で 2012 年度実施分)の一覧を示す。

表1 2012年度 国際学会旅費支援 助成支援者一覧

<若手>

No.	所 属	氏名	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	期 間
1	宇宙科学研究所	オヨハラ カズヲ 小郷原 一智	火星気候変動に関するワークショップ Mars Recent Climate Change Workshop	NASA/Ames Research Center Modeling Group	カリフォルニア州 アメリカ合衆国	2012.5.15 ～5.17
2	独立行政法人 日本原子力 研究開発機構	サウ シンイチロウ 佐藤 真一郎	第38回光起電力専門家会議 38th IEEE Photovoltaic Specialists Conference(PVSC-38)	IEEE 米国電気電子 学会	オースティン テキサス州 アメリカ合衆国	2012.6.3 ～6.8
3	国立天文台	ニワ ヨシト 丹羽 佳人	2012年国際光工学会 2012 SPIE Astronomical Telescopes and Instrumentation	SPIE	アムステルダム オランダ	2012.7.1 ～7.6
4	秋田大学	ワダ ユカ 和田 豊	第9回化学推進の特別な話題にかか わる国際シンポジウム 9th International Smposium on Special Topics in Chemical Propulsion	ISICP2012 Scientific Program Committee	ケベックシティ カナダ	2012.7.9 ～7.13
5	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	キタガワ コウキ 北川 幸樹	第9回化学推進国際シンポジウム 9th International Symposium on Special Topics in Chemical Propulsion	ISICP Organizing Committee	ケベックシティ カナダ	2012.7.9 ～7.13
6	東京大学大学院	フクナリ マサフミ 福成 雅史	AIAA/ASME/SAE/ASEE 合同推進学 会 AIAA/ASME/SAE/ASEE Joint Propulsion Conference	The American Institute of Aeronautics and Astronautics	アトランタ、 ジョージア州 アメリカ合衆国	2012.7.30 ～8.1
7	宇宙科学研究所	カサハラ サシ 笠原 慧	アジア・オセアニア-米国地球物理学会ジョイ ントアセンブリ Asia Oceania Geosciences Society AOGS-AGU joint Assembly	AOGS/AGU	シンガポール	2012.8.13 ～8.17
8	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	オノ テロ 埴 千尋	欧州惑星科学会議 EPSC (European Planetary Science Congress)	Euro planet	マドリード スペイン	2012.9.23 ～9.28
9	京都大学 生存圏研究所	ナガサキ ヨウ 長崎 陽	応用超伝導国際会議 APPLITED SUPERCONDUCTIVITY CONFERENCE	The Institute of Electrical and Electronics Engineers	ポートランド、 オレゴン州 アメリカ合衆国	2012.10.7 ～10.12
10	東北大学大学院工学研 究科 航空宇宙工学専攻 博士課程前期2年	イシハラ トモアキ 石原 智明	第51回 アメリカ航空宇宙学会 航空宇宙科学会議 51stAIAA Aerospace Sciences Meeting	AIAA	グレイブハイン、 テキサス州 アメリカ合衆国	2013.1.7 ～1.10

<シニア>

	所 属	氏 名	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	期 間
1	2012年3月宇宙科学研究所 退職	ヤマシタ マサミチ 山下 雅道	国際宇宙空間研究委員会第39 回科学総会 39th COSPAR Scientific Assembly	Committee of Space Research	マイヨール インド	2012.7.14 ～7.22
2	京都大学生存圏研究所 非常勤講師	キクチ タカシ 菊池 崇	アジア・オセアニア地球物理学会アメリカ 地球物理学会連合大会 Asia Oceania Geosciences Society -American Geophysical Union Joint Assembly	AOGS/AGU	シンガポール	2012.8.13 ～8.17
3	東京大学名誉教授 長崎大学名誉教授	オサキ ヨウジ 尾崎 洋二	降着流の不安定性研究会:熱-粘 性的円盤不安定性モデルの30 年 Accretion flow instabilities: 30 years of the thermal- viscous disc instability model	ポーランド・ニコラス・ コペルニクス 天文学センター	ワルシャワ	2012.9.4 ～9.7

(3) 国際学会・国際研究集会開催の支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援・助成は前身の財団法人創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったので、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする一種内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず、全国の研究機関・大学において理論分野等も含めて宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。移行した公益財団法人宇宙科学振興会においてもこの事業を継続している。従来は申請を受理するたびに審査会を開催し、その学術的意義と効果の審議により採否の判定をしていたが、財団の限度のある資産内で応募の機会均等性を確保するため、2011年度以降は年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りを前年度1月15日、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを7月15日とした。2012年度には4件の応募があったが、内2件を採択した（ただし、2012年1月15日の募集で採択した1件は2013年度に助成実施）。また、2012年度支援した国際学会・国際研究集会4件（内3件；表2中No. 1、No. 2及びNo. 3は2011年度採択で2012年度実施分）の一覧を表2に示す。この支援事業に対する2012年度の助成予算額1,500千円のところ実施助成額は1,400千円であった。（表2参照）

表2 2012年度 国際学会開催支援 助成支援学会一覧

No.	所 属	氏 名	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	期 間
1	JAXA宇宙科学研究所 赤外・サブミリ波天文学 研究系 (H24.2月より宇宙物理学 研究系)	マツウラ シュウジ 松浦 周二	第23回スペーステラヘイツ技術 国際シンポジウム2012年 The23rd International Symposium on Space Terahertz Technology (ISSTT2012)	国立天文台 JAXA宇宙 科学研究所	情報・システム研 究機構 国立情報学研 究所	2012.4.2 ～ 4.4
2	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	モリタ ヤスヒロ 森田 泰弘	第13回環太平洋国際宇宙 会議 13th International Space Conference of Pacific-basin Societies	日本ロケット 協会	京都市国際交 流会館	2012.5.15 ～ 5.18
3	自然科学研究機構 国 立天文台 天文情報センター	ワタナベ ジュンイチ 渡部 潤一	小惑星、彗星、流星に関す る国際会議2012 Asteroids, Comets, Meteors 2012	小惑星、彗 星、流星に 関する国際 会議2012 実行委員会	朱鷺メッセ (新潟コンベンショ ンセンター)	2012.5.16 ～ 5.20
4	東京大学 学術支援専門職員	タナカ トシキ 田中 利樹	第四回超小型衛星シンプ ジウム UN/Japan Nano-Satellite Symposium	国際連合宇 宙局 (UNOOSA) 国立大学法 人東京大学	ウインクあいち ポートメッセなご や	2012.10.10～11 2012.10.12～13

## II. 財団の管理運営

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する独立法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長、非常勤事務職員、派遣職員の3名体制で財団の管理運営を行っている。会計処理は公益財団法人会計基準を適用している。

### (1) 宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業

当財団が一般支援事業として行っている本事業の目的は広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若手青少年の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本事業は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2012年度に支援、後援、共催、協賛を行なった支援先は表3（2012年度啓蒙普及目的一般支援一覧表）に示す通りである。従来これらの団体からの支援要請に対する受け入れは予算の許す範囲内で常務理事の判断で行なってきた。本事業は他の組織・団体が企画・運

営の中心になっている事業への支援であるため、新公益財団法人への移行後はこれらは当財団の公益事業とは認められないため、規模を縮小し経費は財団の管理・運営費(法人会計)から支出することとし、協力の可否は運営委員会で審査することとした。2012年度の支援・協賛額は649.5千円であった。

表3 2012年度 啓蒙普及目的の一般支援一覧表

支援内容	支援先
君が作る宇宙ミッション協賛金	宇宙航空研究開発機構 宇宙教育センター
第 22 回モデルロケット全国大会助成金	日本モデルロケット協会
JAXA 特別公開協賛事業 スタンプラリー景品代	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
第 20 回衛星設計コンテスト協賛金 2012.11.10 開催	財団法人日本宇宙フォーラム

## (2) 基本財産の現況と運用

1990 年の当財団創設時に出捐会社・企業等から受けた寄付金は約 4 億 3 千万円であった。これはその後財団の基本財産として、長期、元本保証の公社債等で運用されている。2012 年度末における基本財産額は 455,189 千円であり、基本財産の運用に伴う果実は 9,171 千円 (約 2.01%) となり、前年実績より約 2,061 千円減収となった。主な減収要因としては 2011 年末に早期償還となったノルウエー地方金融公社 (額面 1 億円、償還日 2034/1/6、変動金利平均 4.5%) を、シルフリミテッド債 (額面 1 億円、償還期間 (短期 4 年 5 カ月)、固定金利年 3%) へ買替したことにより、運用金利が低下し大幅 (約 170 万円) な減収となったことが挙げられる。2013 年度中には他の大口債券 (額面 1 億円) 3 口の満期償還を控え、買い替えにより 2014 年度以降はさらに減収が予想される。今後この債券運用状況の中で一定水準の公益目的事業を実施しつつ、長期間安定した財団運営を行う方策については、去る 2013 年 3 月 12 日の定時理事会及び臨時評議員会において検討・審議を行った。

## (3) 賛助会員の加入状況

2012 年度の会員数は、12 法人 (25 口<sup>※</sup>) であった。 (※ 1 口 10 万円)

#### (4) 大口一般寄付

2012 年末に宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の川口淳一郎教授より 500 万円の一般寄付の申し出があり財団はこれを受け入れた。この寄付金は当財団定款下の現行寄附金取扱規定により、全額公益目的事業の資源に供される。この寄附金の受け入れを記念して 2013 年度第 6 回より宇宙科学奨励賞副賞を 30 万円に増額することを 2013 年 3 月 12 日の理事会において決定した。

#### (5) 理事会、評議員会の開催

2012 年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

・2012 年 5 月 22 日：宇宙科学研究所 4 階会議室において理事会を開催し、「2011(平成 23)年度事業報告及び財務諸表等承認の件」他 7 議案について審議を行った。

・2012 年 6 月 8 日：東京ガーデンパレス 3 階白鳳の間において評議員会を開催し、「2011 年度事業報告及び財務諸表等承認の件」他 2 議案について承認した。

・2012 年 12 月 25 日：「一般基本財産の処分と除外について」の議案の審議承認を得るために 2013 年 3 月 12 日に東海大学校友会館（霞の間）において臨時評議員会を招集することを定款第 37 条に基づく理事会の決議の省略の方法により決議した。

・2013 年 3 月 12 日：東海大学校友会館富士の間において理事会を開催し、「2013 年度事業計画及び収支予算案承認の件」他 7 議案について審議を行った。

・2013 年 3 月 12 日：東海大学校友会館富士の間において評議員会を開催し、「財団運営の課題と一般基本財産の処分と除外の件」について審議承認をした。

以上

参考資料)

#### 2012年度 事業別応募採択数

(2012年4月～2013年3月)

##### 1) 国際学会旅費支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額(¥)
5/15締切	40	10	1,530,000
9/15締切	7	1	170,000
1/15締切	3	0	0
計	50	11	1,700,000

2) 国際学会開催支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額(¥)
7/15締切	3	1	500,000
1/15締切	1	1	500,000
計	4	2	1,000,000

3) 宇宙科学奨励賞

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額(¥)
10/31締切	10	2	400,000